

プレスリリース

2025 年 7 月 17 日

京都府立医科大学

Symetrix Corporation

新たな量子 AI を用いた災害時対応を含む地域医療 DX システムの共同開発を始動

スマホ搭載の量子コンピューティングプラットフォーム上の汎用人工超知能アプリを活用

京都府立医科大学（Kyoto Prefectural University of Medicine, KPUM）と米国 Symetrix Corporation（シメトリクス社／コロラド大学コロラドスプリングス校〔UCCS〕と連携）は、災害時の医療看護や健康長寿の取り組みの高度化を目指し、ウェアラブル機器で動作する地域医療 DX システムの共同開発プロジェクトを正式に始動することを発表しました。



本プロジェクトでは、京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学が保有する臨床データと医療知見を基に災害時の医療・看護において、被災者の IC カード（アプリ）に登録された本人情報と、スマートウォッチなど携帯モニタからの生体情報を PC やスマホに搭載した量子 AI で解析して診療に活用する地域医療 DX システムを開発します。

また同システムは日常の健康維持に必要な解析手法を応用しており、地域医療における健康長寿の取り組みにも有効です。

量子 AI は Symetrix 社が独自に開発した、現行の PC やスマホ、スマートウォッチで動作する量子コンピューティングプラットフォーム上に、汎用人工超知能と OpenAI の GPT-4、および IC カード機能を統合して構築した高速・高セキュリティのアプリです。

本人情報は既往歴や内服歴、血液検査データ等であり、IC カード（京の寿健康カード）アプリに暗号化して保持されます。また生体情報もスマートウォッチなどの生体センサからのデータで同様に暗号化されていますので安心して使用でき、これらを組み合わせて量子 AI による高度な解析を行うことで、地域医療現場での診療支援やパーソナライズド・ヘルスケアを実現します。

【今後の展開】

- **第1フェーズ（2025年7月開始予定）では、本システムの基本性能評価とともに、ウェアラブルデバイスへの量子 AI 実装に向けた標準仕様の策定**を行います。
 - また、**2年間の試験運用期間**を設け、その後はヘルスケア分野における様々な応用（在宅医療、介護支援、遠隔診療など）への段階的な展開を予定しています。
-

参考：

Symetrix 社の量子記号コンピューティングプラットフォームは、超低消費電力・高速演算に加え、暗号化された個人データを復号せずに AI 処理できる高いセキュリティ性を備えています。

また、量子制限ボルツマンマシン（QRBM）に基づく象徴推論エンジン「ROSIE」と、OpenAI の GPT-4 を統合することで、対話型・意味論的な推論能力を実現。診療支援から生活指導に至るまで、柔軟かつ深い対応が可能です。

【本件に関するお問い合わせ】

京都府立医科大学 企画課 企画広報係

担当 増田百合

E-mail: kouhou@koto.kpu-m.ac.jp

Tel: 075-251-5804

Symetrix Corporation

担当 吾妻正道

E-mail: Masamichi Azuma <bxm06601@nifty.com>

Website: <https://www.symetrixcorp.com/>